

「セカンドライフで豊かな生活を目指して」
～自分たちのできる農業の規模を広げない～
しんこファーム 丸末 茂弘・慎子さんご夫婦
生きがい農業コース 19 期生
就農コース 10 期生
インタビュー 令和 4 年 10 月



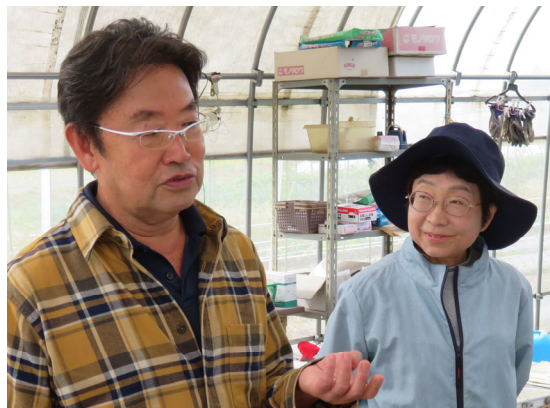
1、なぜ農業をしようと思ったか

旧宍粟郡（現姫路市）の生まれで、子供のころは植林や田植えなどを手伝っていたが、農業とは関係のない家電メーカーに就職した。

仕事は海外が中心で 40 か国以上の国に行ったが、コロンビアなどに行ったとき、飛行機から見える広大な農場やそこで働く人々から精神的な豊かさを感じ、漠然とセカンドライフは農業だと思っていた。

妻も 2012 年に、当時センターが行っていた駅前就農講座を受講し、これからは農業だと思っていた

職場で早期退職の話が出たときに就農を目指すタイミングだと思い、2013 年に第 19 期生きがい農業コースを受講し、同年秋に第 10 期就農コースの研修生になる。



2、楽農生活センターで学んで

就農コースでは色々な栽培技術を教わったが、Uパイプが重さに耐えることができずに倒れたトマトの経験が今の農業に生かしている。トマトとイチゴの両方を教わったが、イチゴは膝が痛くなるなどトマトの方が自分たちに向いているかなと思った。

ハウス 1 棟と露地で農業をしていることから、Uパイプを使う栽培方法や灌水パイプの設置方法など、学んだ手法で栽培しており、今も就農コースでの栽培を続けているようにも感じている。

3、新たに就農して

農場の名前は妻の名前を取り「しんこファーム」と名付け、ハウス 1 棟と露地合わせて 1600 m²ほどで、少量多品目栽培で農業を行っている

1 畝ごとに別の畑のようにして管理しているので、トラクターを使わず小回りの利く管理機で管理している。



農業をやるなら有機農業と考え、就農コース 0B で有機農業を行っている五島隆久さんのところに勉強に行き、BLOF 理論に基づく農業をしようと考えたが、しかし小規模なこともあり、コスト面などから JAS 有機認証を得るのは断念し、「有機質肥料を使用」のシールを作り差別化を図っている。

就農地は直売所に近く、朝どり野菜が販売できることから、化学肥料、除草剤は使わず栽培しており、スイートコーンなどはすぐに売り切れるなどお客様から甘さや柔らかさなどが全然違うといううれしい声を頂いている。また、近所の農家からも野菜の出来を褒められている。



4、今後について

地主から、農地を広げないかとのお話もあったが、これ以上広げても管理ができないと考え、自分のやれる広さでいかに収入を上げるかを考えて農業を行っている。小さな規模でも一定の売り上げを上げており、55歳を目前にしてサラリーマン生活を辞め、農業を始めて年末で丸10年になるが、良い決断をしたなあ~との幸せ感が年々大きくなっているのを感じている。

セカンドライフでこれから農業を目指す人には、自分でやれる範囲で農業をしてほしい。広すぎて管理できないなど無理があるようでは農業を続けていくことはできない。

美味しくて「からだに優しい野菜づくり」を信条に、妻が育苗や定植、夫が管理機での作業や草刈りなどの力仕事を行い、夫婦で役割分担して楽しくこれからも無理せず農業を行っていきたい。

ほ場の様子は Facebook で発信しているので、是非ご覧ください。

「しんこファーム」

<https://www.facebook.com/shinko.farm/>